

1

休講と補講のお知らせ(再確認)

- 休講 6月17日(水)

理由: 国際会議(香港大学)で下記の研究発表のため
 CASE STUDY OF DEMOGRAPHIC URBAN-POROSIS
 BY MULTI-AGENTS SIMULATION FOR SHRINKING
 URBAN POLICIES
- (日本語訳)

縮減都市政策のためのマルチエージェントシミュレーション
 による人口的都市粗鬆症の事例研究
- 補講 7月18日(土) 6限

この日は水曜日の振り替え授業日なので、引き続いて6限
 に補講を行う。

S1 2009/6/10 建築計画論(平成21・2009年度2年生前期) 何も無い見れば生じる 谷口興紀

2

前回続き

クラス実験4(シミュレーション4) ランダム性を2つ入れる

規則①' 隣の人とは無関係に立つ
 規則②5秒測って座る
 規則③立って座った人は、10~30秒を測って、
 再び立ち、5秒測って座る

S2 2009/6/10 建築計画論(平成21・2009年度2年生前期) 何も無い見ればある 河井寛次郎

3

クラス実験4の実施要領

- クラスが3(A、B、C)グループに分かれる
- 観測者の役をする人を2人決める
- 残りの人は、使用者の役をする
- 1鈴の合図で、使用者役の人は、勝手に立つ
- 立ったら5秒測って座る
- 座ったら、10~30秒測ってまた立つ
- 立ったら5秒測って座り、座ったら10~30秒測って立つ(これを繰り返す)
- 15秒毎に鈴を鳴らすので、鈴がなると、観測者は立っている人の数を記録する

S3 2009/6/10 建築計画論(平成21・2009年度2年生前期) 何も無い見ればある 河井寛次郎

S4

「建築計画論」第6回 ある集団の個々の観測値とその頻度分布

- ある集団のメンバーの個々の観測値を処理して、その集団全体の特性を把握する方法として、観測値の頻度分布を求めることが行われる。
- ここでは、与えられた個々の観測データを処理して頻度分布のグラフを手で作成する方法を、演習する。
- 演習1. 観測値の表から頻度分布のグラフを作成する。
- 演習2. 観測値のグラフから頻度分布を作成する。

S4 2009/6/10 建築計画論(平成21・2009年度2年生前期) 何も無い見れば生じる 谷口興紀

S5

このクラスの観測値の表(一部)

識別番号	2009/6/3点数	識別番号	2009/6/3点数
1	5	71	8
2	5	72	7
4	9	73	4
5	5	74	6
6	8	75	4
8	3	76	5
9	2	77	4
10	2	78	4
11	3	79	3
13	4	80	5
14	8	81	5
15	4	82	2
16	4	83	8
19	4	84	5
20	4	85	5
21	8	86	4
22	6	88	3
23	5	89	3
25	4	90	4
26	4	91	5
27	8	92	8
28	3	93	5
29	3	94	3
30	4	95	3
31	4	96	3
32	6	98	3
33	6	99	4
34	4	100	4
35	3	101	2
36	5	102	2
37	5	105	5
38	5	106	1

S5 2009/6/10 建築計画論(平成21・2009年度2年生前期) 何も無い見れば生じる 谷口興紀

S6

頻度分布のグラフ①

①作業用: 理解度に通じている人の絶対頻度分布のグラフ(表から)

S6 2009/6/10 建築計画論(平成21・2009年度2年生前期) 何も無い見れば生じる 谷口興紀

